平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	６５	都道府県・指定都市名	北九州市
学校名（児童数）	北九州市立日明小学校（５５７人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：北九州市小倉北区日明４丁目４－１
電話番号：０９３－５８１－１３３５
研究内容等を掲載しているホームページの URL：hiakari-e@kita9.ed.jp

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：２小学校
○研究のキーワード：我が国の音楽　　音楽づくりと鑑賞の関連　　〔共通事項〕
○研究成果のポイント：

・学級担任が行う１～6 年までの音楽科の指導計画に，「我が国の音楽」の学習を継続的，系統的に位置付けた指導計画を立案し検証した。
・我が国の音楽の特徴（言葉の抑揚，音階，旋律のゆれ，リズムなど）を生かし，鑑賞と音楽づくりの関連を図った教材と指導方法を開発し，検証した。その結果，児童が各活動で学んだことを生かしながら，主体的，創造的に音楽活動に取り組むことができた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

音楽づくりと鑑賞の関連を図った指導方法の工夫改善
～　「我が国の音楽」を中心に～

（２）研究主題設定の理由

本校は，音楽科を中心とした教育研究に８年間取り組んできている。学年がチームとして研究を進め，学年ごとに３回の検証授業を通して，スパイラルに実践の質が高まるように取り組んできた。

児童は，歌うことや音楽を聴くこと等音楽活動への興味・関心が高く，学校生活においても落ち着いた行動が見られるようになった。〔共通事項〕を支えして，鑑賞と表現の効果的な関連を図る研究にも取り組み，成果をあげてきた。しかしながら，音楽づくりの実践が少なかったということと，我が国の音楽をどのように扱ってよいかわからないということが課題として挙げられた。我が国の音楽は，子供が本来もっている日本人の音楽性を引き出すものであることから，音楽づくりの素材としても有効である。このことから，我が国の音楽を学習素材として，双方の学習の関連を図りながら鑑賞と音楽づくりの学習を質的に充実させることは，音楽科教育の重要な実践課題であると考えた。以上のことを踏まえて「我が国の音楽」を学習素材として，「鑑賞」と「音楽づくり」の関連を図った指導方法の工夫改善に取り組むことにした。

（３）研究体制

校長・教頭
研究推進委員会
職員会議
- 学習研究部　・・・指導案検討・授業構成の工夫
- 調査研究部　・・・実態調査・評価方法検討
- 教材・資料部　・・教材開発・資料収集・環境整備
- 音楽活動部　・・・音楽行事　集会活動
- 近接学年部　・・・授業研究・教材研究

（４）１年間の主な取組の経過

４月…研究テーマ設定・概要説明
５月…研究組織構成・計画
６月～11 月…学年研究による全学級研究授業公開
11 月 28 日…実践報告発表会
12 月～２月…研究のまとめ

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

【着眼１】　表現と鑑賞の活動を関連付ける題材構成の工夫

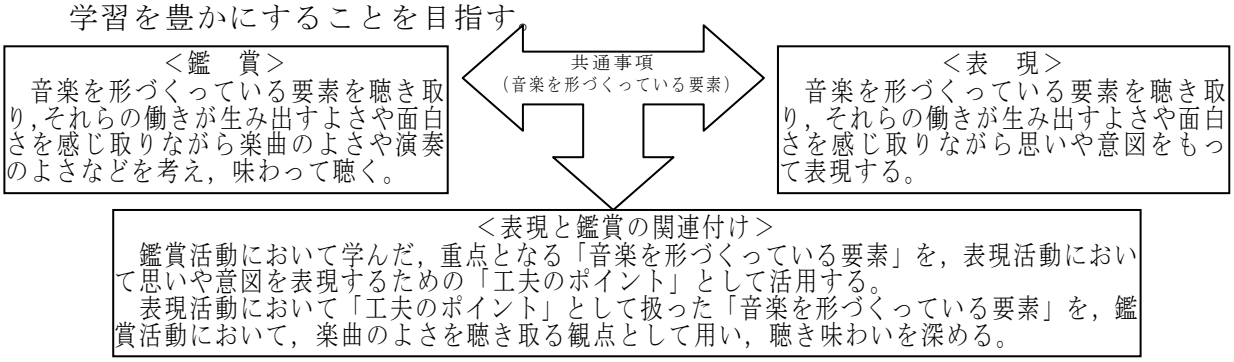
①　題材を貫く指導内容の焦点化

表現と鑑賞の学習をつなぐ学習内容を〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素の中から焦点化する。

＜指導内容の焦点化の例＞

②　〔共通事項〕を支えとした活動の関連

鑑賞と表現の活動をスパイラルに往還することによって，表現と鑑賞の各活動の学習を豊かにすることを目指す。



【着眼２】　感じ取ったことや，自分の考えを伝え合う活動の工夫

音楽の特性に即した言語活動を通して，音楽の特徴やよさ等について自分の考えをもち，伝え合うことによって感じ取りを深めるために，次のような手立てを工夫する。

①　〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素に係る内容を「音楽のもと」，曲想を表す言葉を，「言葉のパレット」として示し，こう表したいという思いや意図を具体的に表したり，楽曲の特徴や演奏のよさについて根拠をもって表現したりできるようにする。

（例…「『タッカ』のリズムがあるから，はずんだ感じがするね。」等）

②　口唱歌を用いる。（三味線…ツンツクツン，箏…シャンシャン）

③　図形楽譜，文字楽譜，メロディボードに表す等，記譜の工夫をする。

④　体の動きで表す。（例…高い音→手を挙げる，低い音→手を下げる等）

⑤　音・音楽で表す。（例…「『♪♪♪』のように～歌いたいな。」）

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

・児童の発達段階に応じた，我が国の音楽の教材を開発し，授業を展開することによって，児童は楽しみながら我が国の音楽に親しむことができた。また，我が国の音楽の特徴（声や和楽器の音色，音階，日本語の言葉の抑揚）を生かした音楽づくりは，子供が取組やすく，音楽づくりの活動に意欲をもって取り組むようになった。

・鑑賞→音楽づくり→鑑賞という流れの題材構成を工夫した。そのことによって，鑑賞で学習したことを音楽づくりにおける表現のポイントとして生かし，音楽づくりの表現の質が高まったり，音楽づくりで学習したことを生かして，鑑賞の学習を行うことで，楽曲の全体の特徴を把握して，聴き味わいを深めたりすることができるようになった。

（２）研究成果の意義等

我が国の音楽は，個人の声のよさを生かした声の出し方で歌えることや，拍節的でない表現も許容しやすく，柔軟に旋律づくりが可能であるという特徴等がある。このことから本研究において我が国の音楽は，子供にとって楽しみながら容易に音楽づくりができる音楽であり，鑑賞においても日本人として生活に根付いていた親しみやすい音楽であることが明らかとなった。

全学年を通して，我が国の音楽を，音楽づくりと鑑賞の関連を図りながら系統的に取り入れたカリキュラムを提案し，その成果を検証できたことは意義深い。

（３）指定期間終了後の取組

今年度で我が国の音楽の研究が２年次となる。今年度は，拍節的なものから拍節的ではないものへの発展が見られた。来年度は，我が国の音楽による積み重ねの成果が得られるよう，更に我が国の音楽の定着及び教材開発に取り組んでいきたい。